

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

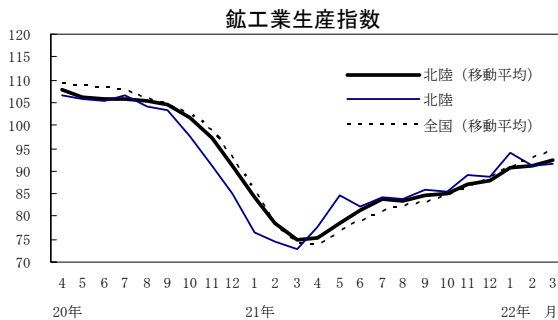
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 22 年 2 月)	今回 (平成 22 年 5 月)	
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	持ち直している	↑
雇用情勢	下げ止まりつつある	持ち直しの動き	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

一般機械は、自動車産業向け金属工作機械や、建設機械、繊維機械の海外向けが堅調なため、増加している。電子部品・デバイス、デジタル家電や携帯電話向けに、半導体素子や集積回路などが増加している。化学は、高水準ながらも医薬品などが減少している。金属製品は、住宅版エコポイントの影響もあってアルミニウムサッシが増加している。繊維は、自動車内装向けの非衣料繊維が増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

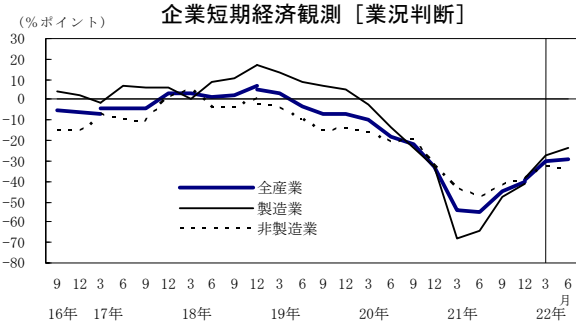
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	16.2	17.7	15.1	—	—
電子部品・デバイス	15.8	3.4	12.1	—	—
化学	14.5	1.4	▲3.9	—	—
金属製品	9.2	▲9.1	12.2	—	—
繊維	8.5	3.2	0.7	—	—
鉱工業	100.0	3.5	5.2	—	—

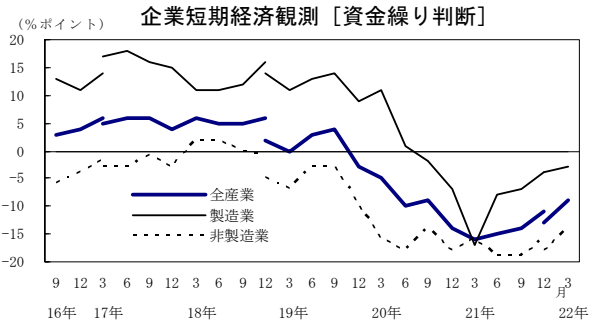
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1~3月期は速報値。
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

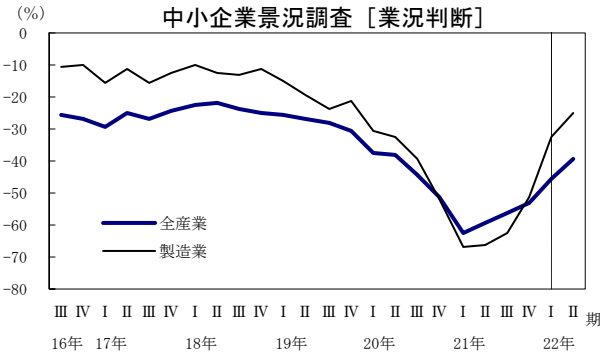
①企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。22年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。22年II期は見通し。
中部地区。

②景気ウォッチャー調査（4月）[企業動向関連（現状）]

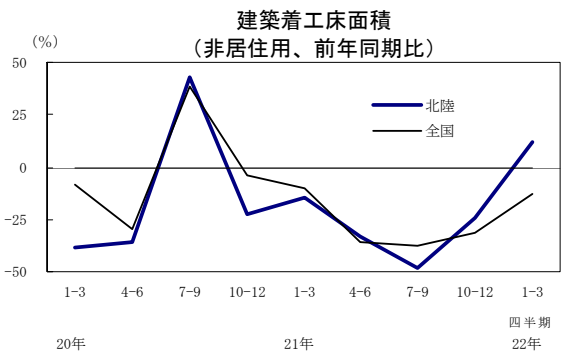
「販売量も受注量も増えている状況にある（化学工業）」ど、「やや良くなっている」とする回答が多く見られた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資（3月調査）]

	(前年度比、%)	
	21年度実績見込み	22年度計画
全産業	▲33.8 (▲9.8)	6.4
製造業	▲36.1 (▲13.3)	16.9
非製造業	▲28.7 (▲1.9)	▲14.7

(備考) () は前回 (12月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

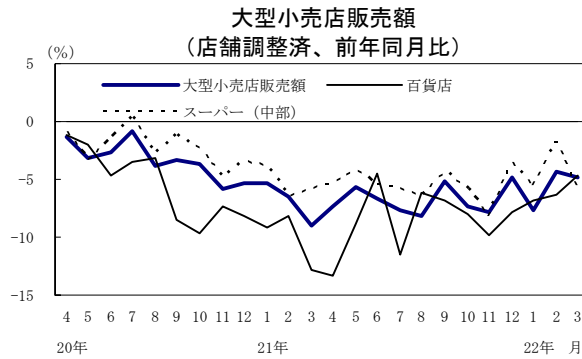
①大型小売店販売額

百貨店は、1月は、初売商戦が鈍かったことや、セールを年末に前倒した影響もあって、前年比の減少幅が拡大した。2月は、高額商品に動きがみられなかったが、下旬に気温上昇があったため、衣料品を中心に前年比の減少幅が縮小した。3月は、2月に引き続き高額商品の動きが鈍く、気温の乱高下により春物衣料の動きが悪かったことなどから、前年比の減少幅が拡大した。

スーパーは、年末セールの反動や、天候不順による来客数減少や衣料品の動きが鈍かったこと等から、低調に推移した。

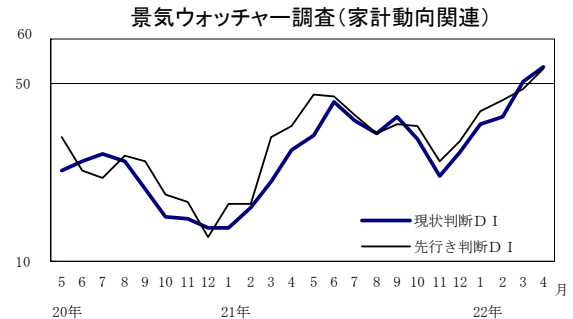
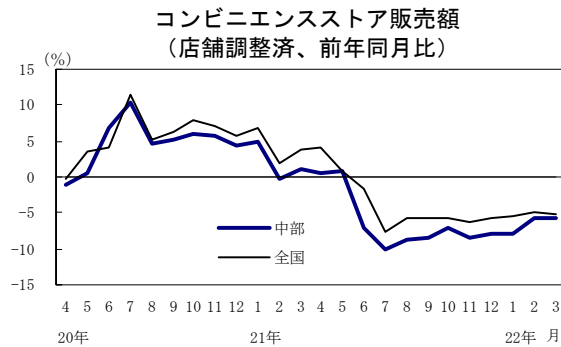
②景気ウォッチャー調査（3月）〔家計動向関連（現状）〕

「ファッション性の高い商品はまだ鈍い状況である。一方、食料品、化粧品、靴下、ストッキング、肌着などデイリー性の高い商品は、良い物を購入する動き、まとめ買いをする動きが顕著になり、売上が前年実績を超える兆しが出てきた。全体では、まだ厳しいものの、動きのよい商材も出始めている（百貨店）」など「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月
大型小売店	▲6.5	▲7.1	▲6.5	▲5.8
百貨店	▲9.0	▲8.6	▲8.5	▲5.9
スーパー	▲5.7	▲6.6	▲5.8	▲5.7
乗用車	▲18.7	2.1	24.1	23.6
景気ウォッチャー	39.8	40.9	33.7	44.5

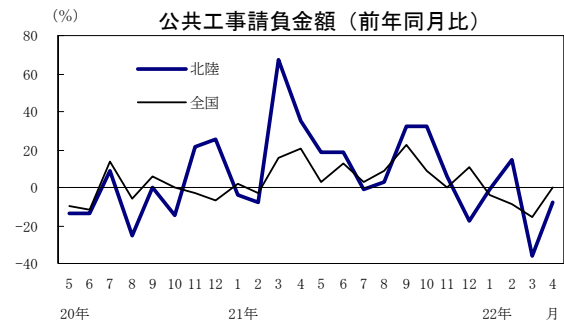
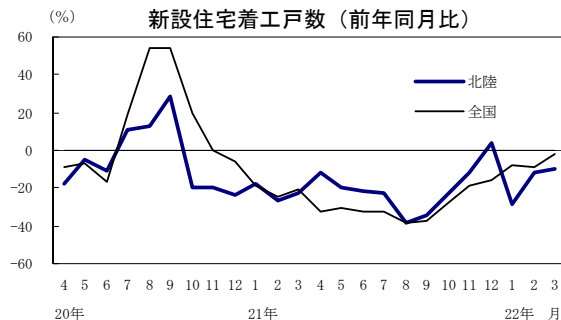
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

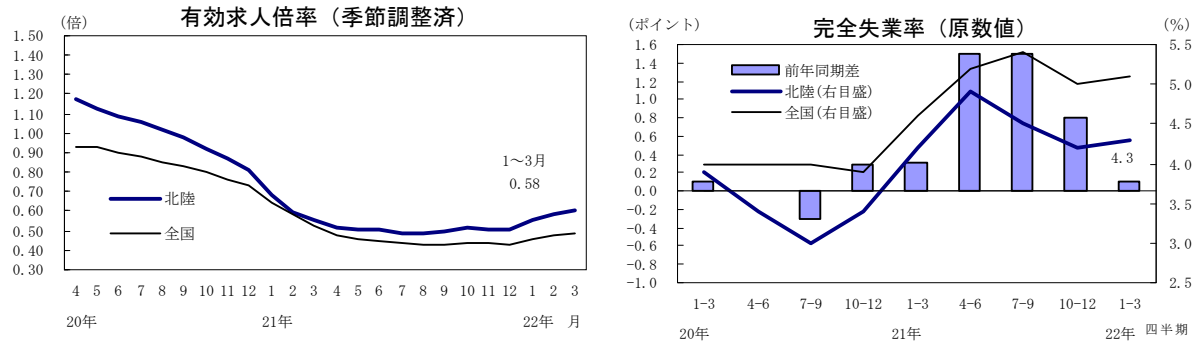


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

①有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



②景気ウォッチャー調査 (3月) [雇用関連 (現状)]

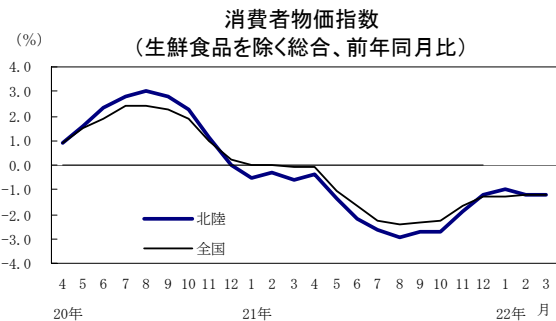
「行政機関での年度替りの人材募集はやや発生しているものの、一般企業では景気の上向きが見込めないため、人材派遣業界の回復は見込めない状況である (人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少しており、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月	22年4月
倒産件数 (前年比)	103 12.0	107 ▲1.8	117 ▲12.0	81 ▲30.8	27 ▲15.6
負債総額 (前年比)	209 ▲33.9	421 ▲48.5	409 22.5	291 ▲48.5	45 ▲17.3



○ 景気ウォッチャー調査 (3月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- 国内及び欧米をはじめとした海外からの引き合いが増えている。国内向けでは来店しての商談も増えており、設備投資が動き始めている (一般機械器具製造業)。

<先行き>

- 家電エコポイントを商品券などに交換した人のうち、さらに家電エコポイント対象商品のエアコンや冷蔵庫の購入を検討している人が多い (家電量販店)。

